

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 5 月 16 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284109

研究課題名(和文) 東アジア諸地域の比較からみた戦時戦後中国の社会秩序と政治文化

研究課題名(英文) Social Order and Political Culture in the Wartime and Postwar China from Comparative Viewpoint with East Asia

研究代表者

笹川 裕史 (SASAGAWA, Yuji)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：10196149

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、第二次世界大戦およびその後の国共内戦という二つの総力戦を経験したことによって、中国の社会秩序がどのように変容し、その変容が中華人民共和国の誕生にどのように関わり、同国家の政策展開や政治手法にどのような政治文化的な特質をもたらしたかを、地域的な差異に留意しつつ明らかにした。そのうえで、同じく総力戦を経験した東アジア諸地域と比較して、その意義づけを行い、中国近現代史に新たな比較研究の視座を提供した。

研究成果の概要(英文)：This study considers the change of social order that was brought in China by the experience of two total wars, namely the Second World War(1939-1945) and the Chinese Civil War that followed it(1946-1949). It also makes clear that the change affected the establishment of the People's Republic of China and contributed to the formation of new political culture in China. In addition, by comparing the experience of total war in other areas of East Asia, such as Japan and Taiwan, this study provides a new comparative perspective on modern Chinese history.

研究分野：中国近現代史

キーワード：比較史 東アジア 社会秩序 政治文化

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 一般に、総力戦という20世紀を特徴づける戦争は、社会の上層から基層にまでおよぶ広範かつ深刻な変容をもたらした。その変容は戦後社会に引き継がれた。中国史の場合、このような視点からの歴史分析は、本研究の研究代表者や分担者の一部が企画・運営にかかわっている中国基層社会史研究会が中心となって進められ、日本史との新たな比較研究の可能性を切り開いてきたが、なお具体的な対象地域は限定され、論点の広がりも十分ではなかった。

(2) 近年の中国近現代史研究は、史料の豊富化に促されて個別事象の新たな発掘は大幅に進展したが、他方で、そこに閉じこもり、外部への発信力をむしろ低下させている傾向がみられる。本研究は、上記の比較研究をより一層拡充することによって、このような閉塞状況を克服する意図をもっていった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、第二次世界大戦およびその後の国共内戦という二つの総力戦を経験したことによって、中国の社会秩序がどのように変容し、その変容が中華人民共和国の誕生およびその政策展開や政治手法にどのような政治文化的な特質をもたらしたかという点を明らかにすることである。

(2) その際、中国の伝統社会が内包する地域的多様性、さらには戦争自体が地域ごとに異なる環境と経験をもたらした事実に着目し、そうした地域ごとの複合的差異を踏まえたうえで立体的な全体像の構築をめざす。

(3) そのうえで、同じく総力戦を経験した東アジア諸地域と比較して、その意義づけを行い、中国近現代史に新たな比較研究の視座を提供する。

## 3. 研究の方法

(1) 上記した研究目的の実現のためには、同一の問題意識を共有しつつ、中国内の異なる諸地域に関する研究実績をもった複数の研究者が協力する必要がある。そのため、研究代表者および分担者は各自の役割分担・地域分担にもとづいて中国大陸・台湾・香港で史料調査・収集を行うとともに、日常的な研究会を定期的開催して、各自の成果の共有に努めた。

(2) そのうえで、日本・台湾・朝鮮など中国以外の東アジア諸地域を対象とする研究者をまじえたワークショップやシンポジウムを開催し、相互の討論を通じて中国的特質について理解を深めた。

## 4. 研究成果

本研究では、都市と農村、華中と華北、日

中戦争期の日本占領区、国民党統治区、中国共産党統治区といった異なった来歴をもった地域ごとの動向を明らかにし、そこにおける戦争がもたらした社会秩序の変容を考察した。そして、中華人民共和国初期における宗族、商工業団体、民間信仰、大衆動員、徴税、食糧買付、言論界、出征兵士家族支援、プロパガンダ、民意調達システムなどを詳細にとりあげ、戦争による社会変容がもたらした政治文化的な特質を明らかにした。そのうえで、戦時期の日本、台湾、朝鮮など他の東アジア諸地域との比較研究のための議論の場を提供した。

なお、本研究の中間的な成果としては、研究の一環として開催したワークショップやシンポジウムの討論記録を小冊子にまとめた。これらは、関連する研究者や研究機関に配布した。さらに本格的な成果報告としては、研究代表者・研究分担者・連携研究者のほぼ全員が分担執筆した学術論文集(『戦時秩序に巣喰う声：日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争』)を創土社から2017年秋に出版する予定である(現在、印刷中)。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計34件)

山本真、「郷里空間の統治と暴力：危機下の農村における共同性の再編と地域自治政権」、小嶋華津子ほか編『中国の公共性と国家権力』(慶應義塾大学出版会) 2017年、105-130頁、査読なし。

丸田孝志、「竈神と毛沢東：戦争・大衆動員・民間信仰」、水羽信男編『アジアから考える』(有志舎) 2017年、192-211頁、査読なし。

三品英憲「近現代中国の国家・社会間関係と民意：毛沢東期を中心に」、渡辺信一郎ほか編『中国の国家体制をどうみるか』(汲古書院) 2017年、275-315頁、査読なし。

水羽信男「現代中国のリベラリズム思潮をめぐる歴史学的考察へ向けて」、『アジア社会文化研究』第18号、2017年、187-197頁、査読あり。

山本真、「民国時期から人民共和国初期にかけての宗族と国家：福建省の事例から」、中国基層社会史研究会(代表：笹川裕史)編『国際ワークショップ：激動期東アジア諸地域の中間団体と国家：中国・日本・台湾』(汲古書院・非売品) 2016年、33-46頁、査読なし。

金子肇、「近現代中国の税政と同業者統制」、同上、2016年、2-14頁、査読なし。

金野純、「現代中国の刑事司法制度と『嚴打』」、『東亜』第583号、2016年、96-106頁、査読なし。

金野純、「文化大革命における地方軍区と紅衛兵：青海省の政治過程を中心に」、『中国研究月報』第70巻12号、2016年、16-34頁、査読なし。

金野純、「社会主義教育運動と対農村経験の回帰：上海 1963-1966」、『第 7 期韓日両地域中国近代史研究者交流会論文集』、2016 年、30-39 頁、査読なし。

奥村哲、「文化大革命の起源に関する覚書」、『研究中国』第 2 号、2016 年、4-19 頁、査読なし。

松田康博、「戦後威権主義対台湾社会的影響」、蔡詠絮編『鄭南榕与言論自由』台北市政府文化局、2016 年、7-14 頁、査読なし。

SASAGAWA Yuji, Characteristics of and change in wartime mobilization in China: A comparison of the Second Chino-Japanese War and Chinese Civil War, *Journal of Modern Chinese History*, volume9 number1, Jun 2015, pp.66-94、査読なし。

笹川裕史、「戦時災害リスクの構造と管理社会化：1940 年代中国の戦時動員と災害」、『史学』(東京大学)編『災害・環境から戦争を読む』(山川出版社) 2015 年、45-71 頁、査読なし。

山本真、「日中戦争期、福建省における戦時総動員と地域社会」、『史学』第 84 巻 1-4 合併号、2015 年、351-389 頁、査読あり。

金野純、「社会の統制」、高橋伸夫編『現代中国政治研究ハンドブック』(慶應義塾大学出版会) 2015 年、223-250 頁、査読なし。

水羽信男、「1930~40 年代中国のリベラリズム」、石井知章編『現代中国のリベラリズム思潮』(藤原書店) 2015 年、421-446 頁、査読なし。

丸田孝志、「毛沢東イメージの形成：日中戦争期から建国初期における物語の形成と展開」、『近代中国と東亜新格局』国際学術研究会論文集、2015 年、93-102 頁、査読なし。

笹川裕史、「中国の総力戦と基層社会」、久保亨ほか編『戦時期中国の経済発展と社会変容』(慶應義塾大学出版会) 2014 年、231-249 頁、査読なし。

笹川裕史、「中国的総力戦と基層社会：以日中戦争・国共内戦・朝鮮戦争を中心」、『抗日戦争研究』2014 年第 1 期(総第 91 期) 2014 年、54-62 頁、査読なし。

山本真、「日中戦争時期的福建省戦時体制、糧食管理と敵家滄」、吳淑鳳編『轉型關鍵』、国史館(台湾) 2014 年、1-36 頁、査読なし。

①金子肇、「人民共和国初期の工商業税民主評議と同業団体：上海の工商業同業公会を中心に」、『史学研究』第 284 号、2014 年、22-44 頁、査読あり。

②金子肇、「抗米援朝運動と同業秩序の政治化：上海の愛国業務公約を素材に」、『歴史学研究』第 923 号、2014 年、18-32 頁、査読あり。

③金野純、「戦争、謠言、社会：建国初期におけるプロパガンダ・ネットワークの形成と動員」、中国基層社会史研究会編『国際シンポジウム・東アジア史の比較・連関からみた中華人民共和国成立初期の国家・基層社会の

構造的変動』(汲古書院・非売品) 2014 年、5-17 頁、査読なし。

④松田康博、「戦後台湾の農地改革」、同上、2014 年、82-90 頁、査読なし。

〔学会発表〕(計 28 件)

金野純、「こぼれ落ちる『人間の声』を拾う」国際シンポジウム「中国 60 年代と世界」、専修大学(神奈川県川崎市) 2016 年 12 月 11 日。

金野純、「日本における文化大革命研究の現状」国際シンポジウム「中国文化大革命における伝統文化の位置づけに関する基礎研究」、青山学院大学(東京都渋谷区) 2016 年 12 月 10 日。

丸田孝志、「中華人民共和国初期の民間信仰と『革命の伝説』」、日中共同研究・中国当代史研究第 5 回ワークショップ「1950-60 年代の中国」、上海市(中国) 2016 年 12 月 3 日。

水羽信男、「1930~40 年代における中国知識人と『社会像』」、中国基層社会史研究会シンポジウム「戦時戦後東アジア諸地域の激動と『社会像』」、上智大学(東京都千代田区) 2016 年 12 月 3 日。

一ノ瀬俊也、「民衆に航空戦のあり方を教える権力：太平洋戦争期の軍事知識解説書をめぐって」広島史学研究会大会シンポジウム「戦時下の民衆と権力」、広島大学(広島県東広島市) 2016 年 10 月 29 日。

丸田孝志、「戦後国共内戦期、中国共産党根拠地の大衆動員と社会」、同上。

金野純、「文化大革命の総合的理解へ向けて：時間・空間・理論」、中国現代史研究会主催シンポジウム「文化大革命と中国研究」、大阪商業大学(大阪府東大阪市) 2016 年 3 月 26 日。

金子肇、「日中戦争後中国の税政と工商同業公会：以上海の貨物税制度を素材に」国際学術研究会「日中戦争結束前後時期的亞洲情勢」、2015 年 12 月 19 日、台北市(台湾)。

水羽信男、「自由主義知識分子的国際情勢観」、同上。

三品英憲、「關於 20 世紀 40 年代各級黨組織對華北農村社會的認識：通過台灣法務部調查局資料室所藏資料來考察華北各邊區的認識為中心」、國際學術研討會「太行山文書與晉冀魯豫抗日根拠地」、河北省邯鄲市(中国) 2015 年 7 月 3 日。

松田康博、「東亜土地改革の典範：台湾個案的決策過程」、中央研究員近代史研究所主催講演会、台湾(台北市) 2015 年 6 月 26 日。

松田康博、「蒋介石反攻大陸政策之終結」、東海大學歷史學系主催講演會、台灣(台北市) 2015 年 6 月 10 日。

山本真、「1930~40 年代福建省の国民政府統治と地域社会：以龍岩縣的保甲制度、土地調査、扶植自耕農、合作社為中心」、明清以来的国家認同学術研討會、上海市(中国) 2015 年 3 月 29 日。

三品英憲、「戦後内戦期の共産党支配地域における権力と秩序：1947年を中心に」、中国現代史研究会大会、大阪商業大学梅田サテライト（大阪市）2015年3月15日。

高岡裕之、「日本近現代史研究における『総力戦』論の変遷について」、中国基層社会史研究会例会、上智大学（東京都千代田区）2015年2月22日。

笹川裕史、「1940年代中国の戦時体制と災害」、史学会112回大会・公開シンポジウム、東京大学（東京都文京区）2014年11月8日。

金野純、「毛沢東時代の大衆運動と社会変動」、高麗大学亜細亜問題研究所中国研究センター国際ワークショップ、ソウル（韓国）2014年9月19日。

二ノ瀬俊也、「大本営陸軍部『支那軍ノ戦力及戦法ノ史的觀察並ニ対策』にみる日本軍の中国軍観」、中国基層社会史研究会例会、上智大学（東京都千代田区）2014年6月14日。

松田康博、「蒋介石の『大陸反攻』政策と冷戦期の東アジア国際秩序」、2014年度アジア政経学会全国大会、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（神奈川県藤沢市）2014年5月31日。

〔図書〕（計5件）

中国基層社会史研究会（代表：笹川裕史）編、『シンポジウム：戦時戦後東アジア諸地域の激動と“社会像”』、汲古書院（非売品）2017年、70頁。

中国基層社会史研究会（代表：笹川裕史）編、『国際ワークショップ：激動期東アジア諸地域の中間団体と国家：中国・日本・台湾』、汲古書院（非売品）2016年、103頁。

山本真、『近現代中国における社会と国家：福建省での革命、行政の制度化、戦時動員』、創土社、2016年、461頁。

金野純編、『講座東アジア共同体論・調和的秩序形成の課題』、御茶の水書房、2016年、285頁。

二ノ瀬俊也、『戦艦大和講義：私たちにとって太平洋戦争とは何か』、人文書院、2015年、329頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等

特になし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

笹川 裕史（SASAGAWA, Yuji）

上智大学・文学部・教授

研究者番号：10196149

(2) 研究分担者

山本 真（YAMAMOTO, Shin）

筑波大学・人文社会科学部研究科（系）・准教授

研究者番号：20316681

丸田 孝志（MARUTA, Takashi）

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：70299288

三品 英憲（MISHINA, Hidenori）

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：60511300

金子 肇（KANEKO, Hajime）

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：70194917

水羽 信男（MIZUHA, Nobuo）

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号：50229712

金野 純（KONNO, Jun）

学習院女子大・国際文化交流学部・准教授

研究者番号：80553982

奥村 哲（OKUMURA, Satoshi）

首都大学東京・人文科学研究科（研究院）・客員教授

研究者番号：80144187

松田 康博（MATSUDA, Yasuhiro）

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：50511482

(3) 連携研究者

一ノ瀬俊也（ICHINOSE, Toshiya）

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：80311132

高岡 裕之（TATAOKA, Hiroyuki）

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：90305491